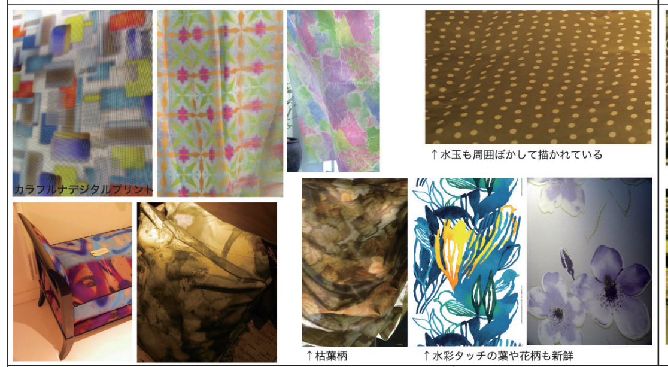
■２００９・MAISON&OBJET・傾向その１（パターン）

2009.02.17・Report- 大場　5/8

＊全体の傾向としては、幾何柄が多い様である。特に今期からデジタルプリントが増えて来ており、輪郭をぼかした物が目立っている。ぼかしたタッチと言う事で、水彩の水玉・葉・花もブラッシュアップされている。

<デジタルプリントのぼかしたタッチ感が新鮮>

固くなりがちな幾何柄もソフトな見え方の仕上げになっている。色使いもカラフルな物が多い様だ。
キバタは厚地～薄地まで幅広い物で、展開されている事にも注目したい。


カラフルナデジタルプリント

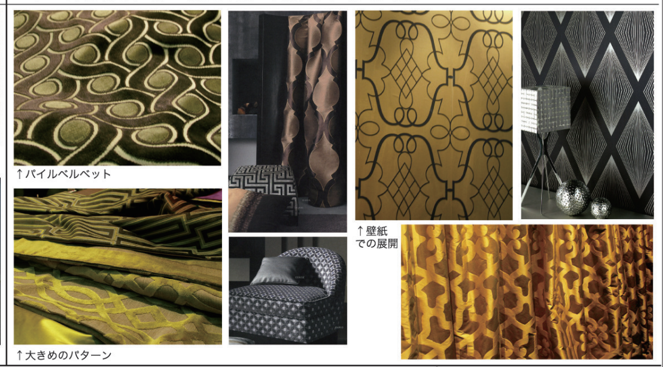
↑水玉も周囲ぼかして描かれている

↑枯葉柄

↑水彩タッチの葉や花柄も新鮮

<アール・デコ調の幾何柄>

特にベルベットや、フロッキー等の毛足のあるクオリティーでのアール・デコ調の幾何柄が多く展開されてる。
パターンが大きめになって来ている事に注目したい。素材もリネン混の物が新鮮。



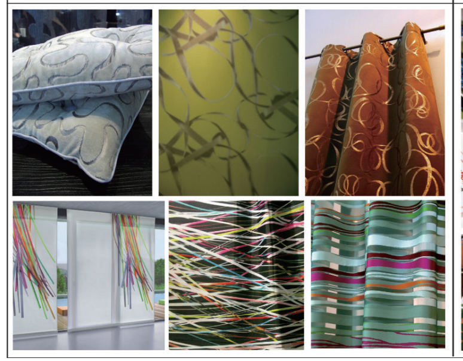
↑パイルベルベット

↑大きめのパターン

↑壁紙
での展開

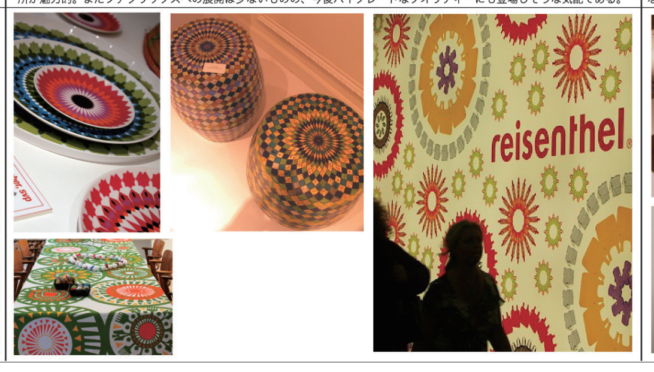
<リボンパターン>

これから増えて来そうなリボンパターン。幾何柄でありながら、女性らしさも演出出来る事から、多くなりそうな予感のするパターン。



<カレイドスコープパターン>

こちらも、これから増えて来そうなカレイドスコープパターン。幾何柄のバリエーショであるものの何処か懐かしい感じのする所が魅力的。まだファブリックスへの展開は少ないものの、今後ハイグレードなクオリティーにも登場しそうな気配である。


reisenthel

<ドローイングパターン>

まだ少数なもののハケ目やスパッタリングなどのドローイング的なパターンに注目。

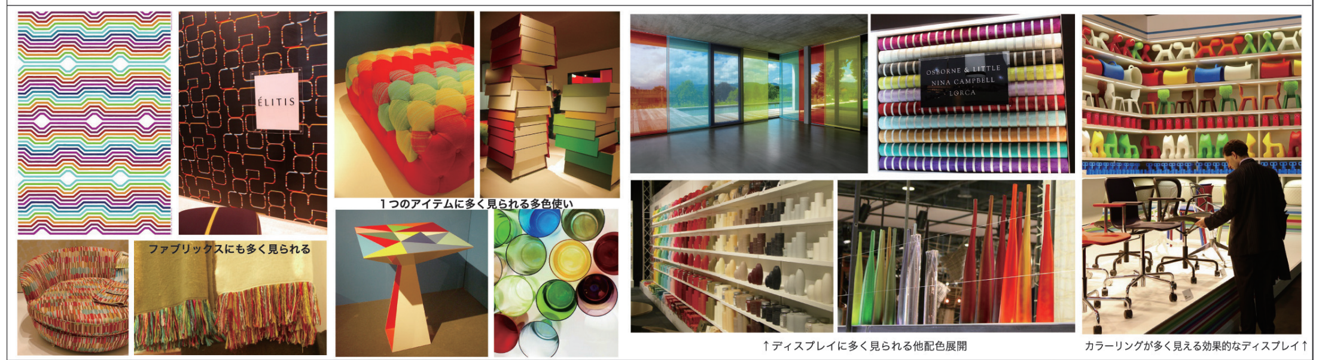
■２００９・MAISON&OBJET・傾向その２（カラー）

2009.02.17・Report- 大場　6/8

＊全体の傾向としては、アイテムの中での多色ミックスがとても増えている。ファブリックスでは同等にターコイズカラーとホワイトの使い方が新鮮。ピンク～バイオレットも健在。今後のグラデーション使いにも期待大。

<カラーを積極的に使用した、多色使いや多配色なアイテムが急増中>

昨年の９月展まではプロダクトアイテムや小物の展開に多かった色使いが、ファブリックス等の大きなアイテムでも展開される様になったのが１月展の大きな変化と言える。
ディスプレイにも前面に使用される事が多く、露出度が多く注目の集まるカラーリングになっている。楽しさを伝える色使いが、暗いイメージの強い市場に元気を与えてくれそうである。

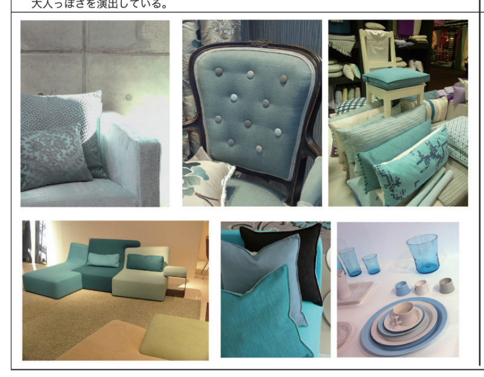

ÉLITIS
１つのアイテムに多く見られる多色使い
ファブリックスにも多く見られる
OSBORNE & LITTLE
NINA CAMPBELL
LORCA

↑ディスプレイに多く見られる他配色展開

カラーリングが多く見える効果的なディスプレイ↑

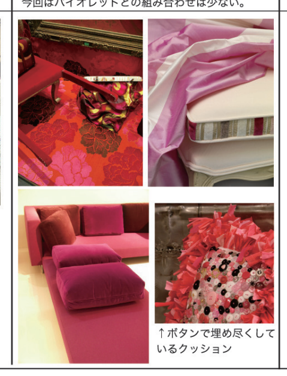
<ターコイズはホワイトを取り込んで爽やかに>

爽やかなターコイズの色使いが新鮮。グレイッシュカラーを少し加える事で、上品さと大人っぽさを演出している。



<ピンクのグラデーション>

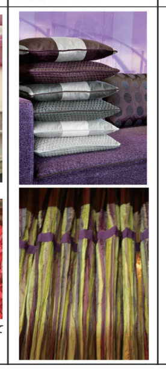
レッド～ピンクの組み合わせが引き続き多い。
今回はバイオレットとの組み合わせは少ない。



↑ボタンで埋め尽くしているクッション

<バイオレット>

バイオレットの色使いに変化が出て来る。



<モノトーン>

モノトーンは引き続き継続。
コーディネートカラーに多い。

<グラデーションのカラーリング>

色の使い方の中での変化が表れて来ている。
パネル的グラデーションのカラーリングが新鮮。

SPRING09 chilewich PRESS

■２００９・MAISON&OBJET・傾向その３（クオリティー）

2009.02.17・Report- 大場　7/8

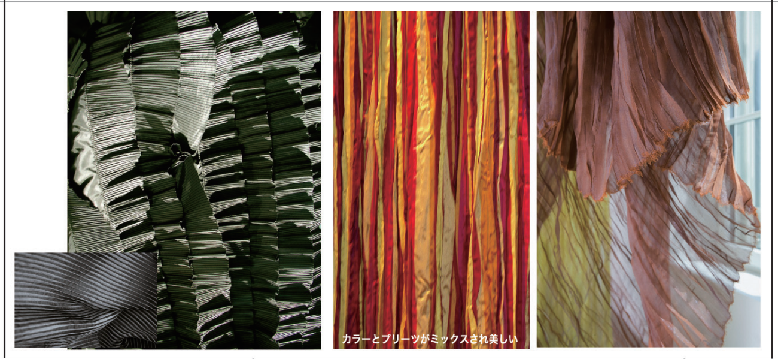
＊クオリティーで新しく感じる物は、ニット（横編みタイプ）やハニカム組織の生地。スポーツアイテムに使用される様な生地がインテリアファブリックスに入って来ている様である。光沢感を出す意味でチンツ加工も増えている。

<デジタルプリント>

パネル柄でのデジタルプリントがエディトゥールにも登場。クオリティーにメッセージが込められている。

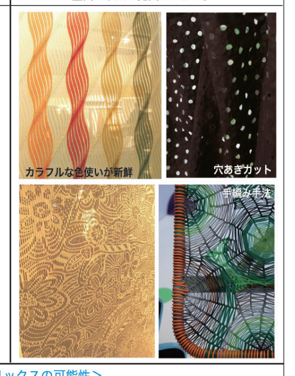
<プリーツ・クラッシュ＆シワ加工>

生地の表面効果の手段として、プリーツ・クラッシュ・シワ加工などが挙げられる。ベース生地としては、厚地から薄地まで巾広いが、総じて光沢感の有るものが多い様に思う。


カラーとプリーツがミックスされ美しい

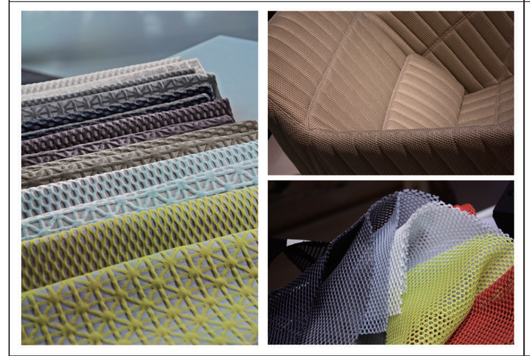
<薄地のバリエーション>

薄地のバリエーションが広がっている。織り・編み・カットなど豊富な手法が見受けられる。


カラフルな色使いが新鮮
穴あきカット
手編み手法

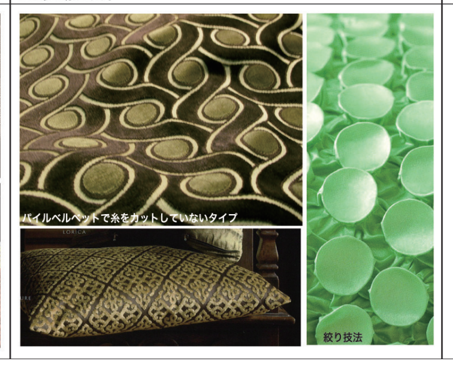
<ニットのバリエーション>

アパレルで使われる生地のニット（横編み）タイプや、スポーツウエアーに使われる様なハニカム素材が新しい。



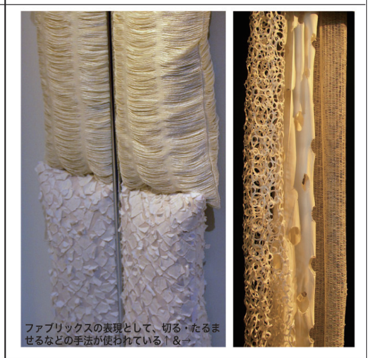
<凹凸感のあるクオリティー>

定番的なベルベットに加え、絞り技法で凹凸を出すもの等のバリエーションもまだまだ多い様である。


パイルベルベットで糸をカットしていないタイプ
LORICA
絞り技法

<ファブリックスの可能性>

生地を裂いたり、穴を開けたり、垂らしたり．．．と様々な可能性にトライしている商品。今後の展開に期待。


ファブリックスの表現として、切る・たるませるなどの手法が使われている↑&→

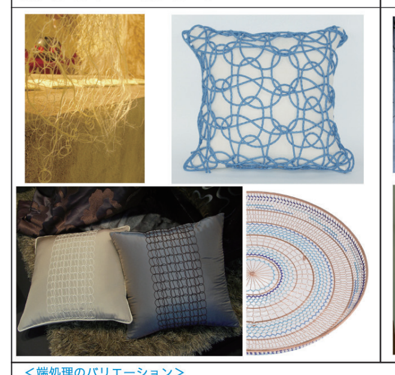
■２００９・MAISON&OBJET・傾向その４（スタイル）

2009.02.17・Report- 大場　8/8

＊全体の傾向としては、アイテム自体に力強さのある物や、周囲の物・空間と関連性のある物に、注目が集まっている様に感じる。また、限定生産アイテムも多く聞かれた。

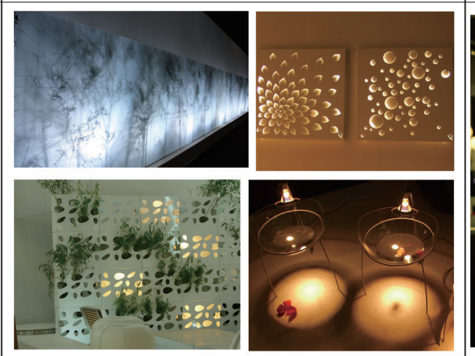
<素材力>

素材の繊維そのものを魅せる様なアイテムが出て来ている。
繊細な見え方が、とても新鮮に見える。



<陰で魅せる>

アイテムその物ではなく、陰やシルエットを楽しむ物が、年々増えて来ている。
光を上手く取り入れているものが多い。

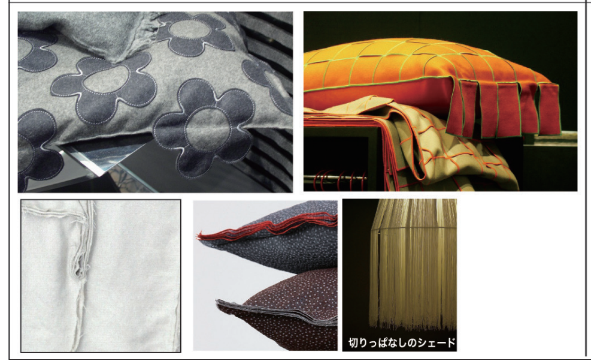


<ズラして魅せる>

ずらす効果を利用している物も面白いアイテムが登場して来ている。
ミラーや薄い生地を使用する事で、効果を高めている。

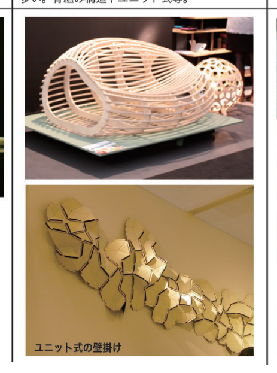
<端処理のバリエーション>

主にファブリックスのアイテムでは、アイテムの端処理にバリエーションが広がっている。
切りっぱなしや、モチーフをはみ出させる事で広がりを見せたりと、まだまだ広がる気配を感じる。


切りっぱなしのシェード

<組み立てる楽しみ>

組み合わせる面白さをうたっているアイテムも多い。骨組み構造やユニット式等。



<スツールの可能性>

今までに無く、スツールアイテムの展開が多くなって来ている。
今期は特に魅力的な物が多く出展されていた。

ÉLITIS
デジタル PT で動物を展開